



## talk! talk! talk! 女優・川島令美さん



女優

### 川島令美さん

女優として活躍中の川島令美さん。他にもアパレルブランドを立ち上げ自らデザイナーをつとめたり、サッカー好きが高じて芸能人女子フットサルチームにも参加するなど活動の幅を広げている。D70を愛用しているという川島さん。写真で日常を切り取りながら、近頃では「技術を学んで写真でもっと表現できるようになりたい」と思っているのだとか。今回は写真の魅力について、そして技術の上達を誓う(!?)川島さんの熱い写真トークをお楽しみ下さい。

#### プロフィール

カワシマ・レミ。1979年、神奈川県生まれ。1997年にテレビドラマ「ガラスの仮面」でデビュー。以後、ドラマ、映画、舞台、バラエティ番組、写真集など幅広く活動している。主な出演作に映画「東京攻略」（香港/ジングル・マ監督）「悪魔が棲む家2001」（宮下昇監督）、テレビドラマ「D-girls」（主演）、徳永英明さんのAlbum「VOCAL II」の映像特典PV集「雪の華」「あの日に帰りたい」出演など。

また、ファッション誌やグラビア雑誌などの出演を始め、コラム連載や芸能人女子フットサルチーム（chakuchaku.J.b）への参加、アパレルブランド「MARIACIDA」を立ち上げ自らデザイナーをつとめるなど、多方面でその才能を発揮している。

1月13日より主演映画「刺青」（瀬々敬久監督）が公開。3月には月刊アクトレスシリーズ「月刊 川島令美」（新潮社）が発売予定。

## Beginning 出会い

### 思い通りに撮れないおもしろさから 思い通りに撮ってみたい欲求が芽生えて

写真を撮り始めたのはいつぐらいからですか？

始めたのは20歳くらいですね。こういうお仕事をさせていただくようになってから、フォトグラファーのお友だちができて写真に触れる機会は多かったのですと興味はあったんです。でもなかなか踏み出せないでいたんですが、たまたまアンティークショップに行く機会があって、そこでアンティークカメラを見つけたんですね。まず見た目がいいなあと思って、こういうカメラではどんな写真が撮れるんだらうって疑問を持ったのが、写真を撮るのきっかけなんです。

最初はアンティークのカメラで写真を撮られたんですね。

そうです。それを買って撮るようになって。本当に古いカメラで、ピントを合わせるのも結構アバウト、写真が出来上がるまではいったいどんな風に撮れているのか予想もつかないというカメラだったんです。でも逆にそれがおもしろくて、どんどんハマっていきました。

そのうち、出来上がってからの楽しさというもおもしろいけれど、だんだん思い通りの写真を撮ってみたいと思うようになってきたんです。それからインターネットで日記を書くようになって、そこに写真を掲載しようと思ってフィルムカメラだと使い勝手があまりよくないかなと思って、悩んだ末に新しくデジタルカメラを買うことにしたんです。

どのカメラを買ったんですか？

D70を買いました。私の事務所の社長がカメラ好きで詳しくだったので相談したんです。一眼レフカメラで、素人にも使えるようなデジタルカメラがいいって言ったら、それならD70がいいんじゃないかとすすめてもらいました。すぐ店頭に行きました。すぐ店頭に見に行きましたよ。持ってみたら手にしっくりなじむ感じがして、重さも見た目も自分に合ってるなと思ってD70に決めました。そのとき、たぶん3年前くらい前だったんじゃないかと思いますが、D70が発売されてすぐで、レンズキットがあったのでそれを買いました。それからはずっとこれで撮影をしています。

カメラは普段から持ち歩いているんですか？

普段はコンパクトのデジタルカメラを持ち歩いて、車で移動できるときや余裕のあるときにD70を持っていきます。あとは休日に近所をちょっと散歩しよう、なんてときはD70を持って行って撮影をしています。旅行や実家に帰るときなどもD70を持って行ってます。

写真は毎日必ず撮ろうとか、どこかに撮影に行こうとかいうよりも、「ゆるく撮っていいこう」というスタンスで撮っています。日常の中で時間のあるときに、カメラを持って行けるときに持って行って撮ればいいなという感じなんです。

どのようなものを撮影しているんですか？

近所の公園に行くことが多くて、おもしろい風景が多いですね。人も撮りたいんですけどなかなか勇気がなくて撮れなくて、友だちにモデルになってもらって撮ったことはあるんですけど、誰かに話し掛けて撮ってっていうのができないんですよ。撮って怒られたらどうしようって考えるとなんだか恐くて。あ、でも私おばあちゃんだけは得意なんです（笑）。話し掛けやすいんですよね、なんだか。でも公園に行くとかわいい小さな子どもがいたりして、撮影してみたいんですよ。話し掛ける勇気が持てたらいつかチャレンジしてみたいですね。

## Pleasure 楽しみ

### 撮ったものが心に刻まれる 写真は多くのことに気づかせてくれる

川島さんは写真のどんなところに魅力を感じますか？

自分が見たものを写真に残すことができるってすごいんですよね。それと同時に、写真に撮ったものって忘れないんですよね。記憶に残る、心に刻まれるんです。普段通り過ぎていた景色でも、写真に撮ると印象深い景色に変わっちゃうんです。ここで写真を撮ったって覚えているんですよ。友だちを撮っていたときだったら、そのとき話していた会話を覚えていたりするんですよ。世間話なんて普通なら忘れてしまうのに、写真を見ると思い出せたりする。思い出を心に留めていけるというのはとても素敵ですね。カメラの素晴らしいところだと思います。

なるほど。

それからカメラによっていろいろのものを発見したり、気づかされたりすることが多いですね。ファインダーを覗いていると、角度や目線によってもの見え方がこんなに違うのって驚かされるんです。たとえばすぐく下から、大の目線くらいから見上げて

みると、いつも見ていた空よりももっと空が広くて、世界全体がこんなに広いんだって思ったりして、見方を変えると同じものでも全然違うものになるんだなって気づいたんです。

あと被写体を探しているいろんなものを見るようになるので、気づかなかったものを発見したり、ちょっと脇道は行ってみようかなって思って新しいスポットを見つけたりする。カメラを手に行っていることで、そういう新しい感性が自分に生まれてきたり、新しいものに出会えたり、そのたびにドキドキして楽しいなって感じるんです。

被写体を見つけて、撮影して、写真を見て、それぞれに感動されていらっしゃるんですね。

被写体を探して、「あ、これ！」って見つけて、どう撮ろうって考えている工夫をして、ファインダーを覗いてどう写るのかわかって想像して。写してから写真は見て、思い通りになったなとかまた違う世界が写ってるなとか、そういう一瞬一瞬全てがそれぞれ違った面白さがあると思います。

ひとつの被写体に対して、いろいろ撮り方を考えて撮影されているんですか？

はい、最近いろいろ試してみているんですよ。ただピントを合わせるだけでなく、目線を変えたり、ライトの前にカーテンを1枚ひいて光量を変えてみたり、スピードライトを使わずに撮ってみたり。この間は花の茎を短く切って、水に浮かべて撮ったどうなるかなってやってみたりもしました。

正直、あまり技術的なことはわからないので、ほとんどは「こうしたらどうなるだろう？」っていう好奇心。自分の感性で好き勝手に撮るのが楽しくて、いろいろ試してみています。私、説明書やガイド本のようなものを読むのが苦手で.....読んでも吸収できないというか。だからカメラの知識があまりなくて、D70は宝の持ちぐさなんじゃないか?とったりもするんですよ(笑)。

たとえば一度カメラについてちゃんと習ってみるといいかもしれませんよ。ニコンが運営している「ニコン塾」などもありますし、それなら基礎の基礎から教えてくれるコースもありますよ。

え?そういうのがあるんですか?それは誰でも教えてもらえるんですか?

もちろんです。わかりやすく要点を教えてくれるので、ひとりで勉強するよりも意外にスムーズに理解できると思いますよ。D70をもっと使いこなせるようになれば、もっといろいろな撮り方ができるようになるかもしれませんね。

うわあ、それ習いたいです!実はいつも技術的なことがわからなくなってしまって、説明書片手に撮ってみても何が違うのかわからなかったりしてたんです。人に聞いてもそのときわかるだけで結局ちゃんと理解できなくて.....それ、受けます(笑)!ぜひやってみたいです。



## Photo's 作品紹介

カメラを手にしてからこれまで 撮り続けてきた日常のひとコマ



1 アンティークカメラを初めて手にした当時、私の一番の被写体は、可愛い可愛いうちの姪っ子めいちゃん。



2 タイで知り合った子供達。まだ幼い弟くんの世話を一生命ずるお兄ちゃんがとっても印象的でした。



3 生い茂る木々と朽ち果てた大木……。  
そこには「生と死」が共存していました。



4 ファーストキス？  
友人の愛犬“タビちゃん”の、ファーストキスの瞬間を激写!?



5 「青空の下でするバスケットは気持ちいいだろうなあ」なんて思いながらずっとファインダー越しに、バスケットをする人々を眺めていたら……  
ダンクする決定的瞬間が撮れちゃいました！。





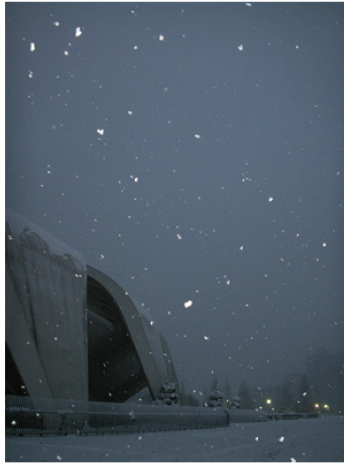
6 夏の終わりに咲いていたひまわりはすこし淋しそうで……  
それでも空を目指して、高く高く花開いていました。



7 バスの窓際に感じる暖かな光を感じながら、バスにゆらゆら揺られての読書はとても楽しく  
気持ちいい。  
そしてたまにうとうと……。



8 冬の海はなんだかもの淋しくて……思わずシャッターを押してしまいました。  
照りつける夏の海も好き。  
でも、冬の海は冷たく澄みやかに私の中に流れ込んでくる。



9 粉雪がとてもキレイな日で、記憶にも深く雪の冷たさや柔らかな感覚が残っています。



10 赤いガーベラって、神秘的な鮮やかさがあって好きなんです。カーテン越しに光を通して撮った1枚です。

## Future これから

### 自分のカラーが出せるように もっと写真を楽しめるようになりたい

インターネットからも申し込みますし、ぜひ受講してみてください。

はい。カメラのことが理解できたら、花を撮るとき、バックをどれくらいボカそうとか、そういうのもできるようになりますか？ そういうのおもしろそうですね！.....すみません、ニコン塾の話を聞いたらそれで頭がいっぱいになっちゃいました（笑）。これまでは見たものをそのまま残すという感じが多かったんですが、本当に最近、もっと写真を作り上げたいというか、写真で表現をしたいという気持ちになってきたんです。だからとても興味があって。マイクロレンズや魚眼レンズもおもしろそうですね。それから私、サッカーが好きで自分でもフットサルをやったりしているんですが、スタジアムに行って写真を撮るんですが、なかなか撮れないんですよ。ピントが合わなかったり、シャッターチャンスを逃してしまったり、サッカーの写真が撮れるようになりたいんです。

スポーツ写真もなかなか難しそうですね。

もっと長いレンズがないとダメだとは思っていますが、でもとりあえず、せめてシャッターチャンスを逃さないようにしたいですね。ファインダーを覗いていると選手を見失っちゃって（笑）。

他に、今後撮ってみたいものはありますか？

最初にも言いましたが、風景だけでなく人物を撮ってみたいです。友だちを撮っていて、やっぱり風景とは違う楽しさがあるなって感じました。動きがあって、その一瞬、一瞬をとらえるのがおもしろい。

私自身、写真集を出させていただく機会があったりして、仕事柄、撮られる側になる機会はとても多いんです。撮られているときも、自分に撮った経験があると、自分がどう写るのかを想像できたりわかってきたりするようになったんですね。それからフォトグラファーさんとの呼吸だったり、二人の間にある空気感だったり、そういうのを写すんだなって。仕事を始めた頃はただ撮ってもらっているってだけだったんですが、今は一緒に1枚の写真を作っているって感じるようになったんです。だから、今度は自分が撮る側としてそういう写真を作りたいですね。

その友だちに、今度子どもが産まれるんですよ。だから、産む前の彼女と産んでからの彼女、生まれてきた子どもも撮ってあげたりして、記録としても残していきたいなって思います。

それは素敵ですね。

そうやって1から自分の考えを反映させて作り上げていくのって楽しいですよ。そこには何の規制もないから、好きに、自由に想像して撮ることができ。本当に写真って無限の楽しみ方があるんだなって思います。人物だけでなく風景も、ただ撮るだけではなくてそこになにかプラスしていきたいです。自分のカラーというか、自分の表現方法を出せていけたら、そういうことができるようになりたいです。

ぜひ、自由に想像して写真を楽しんでいってください。

はい。でもまずは、そのために腕を磨かなければいけないですね（笑）。思ったことを表現できるように.....ああ、楽しそうだな。今日お話を聞いて、自分でも話しているもっと上手に撮れるようになりたいなって強く思いました！ これからもっともっと写真を楽しめるようになっていきたいなと思います。



衣装提供：Siera Leone/Guardian(ISBIT)

---

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部  
株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

---

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.